

家庭内言語政策・方針 (FLP) における「成功」とは何か?

—トランスランゲージングの観点からみたとき—

企画者：小幡佳菜絵 (清華大学大学院)

主に2000年代以降、学際的領域として発展してきた家庭内言語政策・方針 (Family Language Policy; 以下、FLP) の議論を牽引してきた、中心的な論文のひとつが、King *et al.* (2008) です。この論文は、今後の研究課題をふまえつつ、次の提案で結ばれています。

Lastly, future work might also examine critically **how parents and other caretakers define ‘success’ in family language policy implementation**, how this definition changes over time, and what is at stake for children, parents, and communities in working towards this goal (King *et al.*, 2008: 918).

最後に、今後の研究課題として、(1) 家庭内言語政策・方針 (FLP) の実践における「成功」を、親やそのほかの保護者がどのように定義するのか；(2) この「成功」定義は、時間の経過とともに、どのように変化するのか；(3) そして、この目標達成に向けて取り組むうえで、子ども・親・コミュニティ (地域社会) にとって、何が問題となるのかを、批判的に検討することが挙げられるといえます (拙訳)。

そこで、このテーマ交流会では、家庭内の言語選択・言語学習・言語使用等についての意思決定や実践を中心的に扱う FLP や、より広く子どものバイリンガル教育の文脈に照らしたとき、「成功」とは何を意味するのか、という主題を中心に、親；保護者；教師；複数言語環境の家庭で成長した当事者など、多様な立場・役割から FLP や子どものバイリンガル教育にかかわる参加者の皆さんと、多角的な視点から意見交換をさせていただきたいと思います。具体的には、次のような問い (案) を考えています。参加者の皆さんからの問いのご提案も、大歓迎です。

1. そもそも、FLP や子どものバイリンガル教育において、「成功」；「失敗」という概念は必要なのでしょうか？ 仮に、これらの考え方が適切でないとするならば、これらの概念に替えて、どのような考え方がオルタナティブとして重要だと考えますか？
2. 仮に「成功」をあえて定義することを考えた場合、トランスランゲージングの考え方は、FLP や子どものバイリンガル教育における「成功」を考えるうえで、どのように関連づけられるのでしょうか？
3. とりわけ、継承語教育の文脈において、トランスランゲージングは、すべてを解決する《魔法の杖》《万能薬》ではない、という指摘もあります (Prada, 2021)。仮にこのような批判的視座に立ったとき、保護者や教育実践者などの立場から、トランスランゲージングの考え方には、どのような課題がありうると考えますか？ また、その課題は、どのようにすれば、克服しうると考えますか？

参考文献

- King, K. A., Fogle, L., & Logan-Terry, A. (2008). Family language policy. *Language and Linguistics Compass*, 2(5), 907-922. <https://doi.org/10.1111/j.1749-818X.2008.00076.x>
- Prada, J. (2021). Translanguaging awareness in heritage language education. In S. Loza & S. M. Beaudrie (Eds.), *Heritage Language Teaching* (pp. 101-118). Routledge.